第37号

丹後地域オレンジロードつなげ隊 活動通信

令和７年６月３日発行
京都府丹後保健所　保健課
（丹後地域包括ｹｱ推進ﾈｯﾄ）

1　丹後地域オレンジロードつなげ隊圏域連絡会（第１回）について

令和７年度第１回圏域連絡会を去る５月８日に開催しました。

今年度より、「オレンジロードつなげ隊事業」は「認知症本人とともに行う活動促進事業」に変更され、それに伴い実施要領も変更されたので、連絡会では変更点等の説明を簡単にしました。詳しくは、４月に郵送した実施要領をご覧ください。

また、当事者本人とともに行う啓発活動を主体的に実施していただくことに伴って、企画書の様式に「参考にした当事者の年代や性別、聞き取った意見」をご記入いただく欄を設け、報告書の様式には一緒に活動いただいた当事者がおられる場合は、感想を聞いていただいたり、啓発された人に感想を聞かれたりすることも想定した欄を設けました。

しかし、毎回、当事者と一緒に活動することは難しいと思いますので、なるべく企画段階に意見を反映できるような啓発活動をお願いしたいと思います。

なお、企画書と報告書の様式は、丹後保健所のホームページ（オレンジロードつなげ隊のページ）に掲載していますので、ご活用ください。

その他、①京都府認知症応援大使は今９名委嘱されていますが、随時募集されることになったので、北部地域からも大使になられたら良いのではと思われる当事者がおられましたら教えてください。

②今年度も、若年性認知症当事者の下坂厚さんの写真をお借りできる写真パネル貸し出し事業の紹介。

③オレンジロードつなげ隊に関する申出書について、今まで旅費の支払いに伴い、口座情報もお聞きしていましたが、ボランティア保険加入等に必要な事項に絞りましたので、登録内容に変更がある方はご連絡いただきたいです。

新しい認知症観について

「新しい認知症観」は「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に基づく基本計画の中で示された。

認知症になっても自分らしく希望を持って暮らし続けることができるという考え方。

認知症の人が自らの意思で日常生活や社会生活を営むことができるよう、地域や家族のサポートを受けながら、前向きに生活することを目指している。

認知症になったら何もできなくなる、わからなくなる、という古い認知症観ではなく、認知症を正しく理解してもらう啓発方法を改めて考える必要があります。

〈啓発方法の例〉１．教育プログラムの実施
２．メディアキャンペーン
３．体験型ワークショップ
４．地域のサポートネットワークの構築
５．認知症の人の声を伝える

座談会

当事者と支援者から、認知症と診断されてからの気持ちや地域への希望など、今後の啓発活動に繋がるお話を伺いました。

当事者：森田　明彦 氏
（大津市在住）

2023 年に若年性認知症と診断された。
昨日、誕生日で 58 歳になった。

元々、電機メーカーのエンジニアで、仕事ばかりしていた。
診断された時はショックだった。
今は、少しでも周りの役に立ちたいという思いで活動している。

今まで出来ていたことができなくなってきたが、仕事は好きだし、仕事だと思うと、できることもある。

診断された直後に、妻が認知症初期集中支援チームに電話したが、「うちではない」と言われ、相談先が分からなかった。

困っていることは何か聞かれることが多いが、聞かれても答えられない。
「大丈夫？」と聞かれるのは嬉しくない。
過剰に接してもらっても「まだできるのに」と思う。
自分が当事者の立場だったらどうか、と思ってもらえると、イメージしやすくなるのではないか。

地域の中での活動って、特別に考えなくてもいいんじゃない？
「普通」で良い。自分達は特別じゃない。

今回の講演依頼について、こうやって話すことで人の役に立てていると思えている。話すことは楽しいし、役に立てていると思うと嬉しい。

どうして病気になったのか、葛藤もある。

支援者ではなく、**社縁者**

支援者ではなく、**共立**（ともだち）

支援者：奥村　幸応 氏
（認知症の人と家族の会滋賀県支部　副代表）

森田さんの奥さんが僕に声をかけてくださったのがきっかけ。
当事者も家族も支援者も、「一歩動く」ことが大事だと思う。

地域とのつながりを作るために奥さんがたくさん動かれた。「認知症患者の当事者とはどこで会えますか」と聞かれた時に答えられなかったのが情けなかった。

家族にもトータル的にサポートできる制度がもっとあるとよい。

何度かお会いしたある日、森田さんの口から「認知症は嫌だ。なりたくない。」と本心を教えてくれたから、交流を深めた。

ふくし→
ふだんの　**く**らしの　**し**あわせをサポートする
かいご→
かんしゃ　**い**っぱいの　**ご**えんが生まれる仕事

森田さんと「掛け合い対談」を始めたきっかけは、森田さんの「人の役に立てることがあれば･･･」という言葉を具現化するためだった。
収入面も大切な課題の一つ。とても必要なこと。

森田さんの「普通」で良いんだけど…という言葉がとても印象的でした。認知症が特別でなくなる地域に丹後がなりますように！